



クラウド型 航空機騒音データ分析システム



クラウド型航空機騒音データ分析システムAiriseは

「航空機騒音に係る環境基準(環境省)」及び「航空機騒音測定・評価マニュアル(環境省、令和2年3月)」に準拠したシステムです。航空機騒音測定・評価マニュアルは全国の航空機騒音監視業務を実施する上で指針とする文書ですが、その内容は多岐にわたり、複雑なものです。Airiseをご利用いただければ、航空機騒音測定・評価マニュアルに準拠するために求められる対応ができるようになります。例えば、航空機騒音測定・評価マニュアルに「航空機と航空機以外の騒音を識別する方法」として例示されているすべての方法を利用することができます。

Airise で利用できる 「航空機と航空機以外の音源を識別する方法」

- ・騒音レベルの大きさや継続時間、変化パターンを基に識別する方法
- ・騒音の到来方向の情報を基に識別する方法
- ・航空機が発するトランスポンダ応答信号電波等に注目する方法
- ・騒音の周波数特性の違いを基に識別する方法
- ・隣接する測定局間の騒音発生時間差で識別する方法
- ・レーダ航跡データと照合する方法

Airise で利用できる 「評価に用いる測定データを確定する方法」

- ・近隣の測定地点の測定結果を用いる方法
- ・音圧信号の記録を用いる方法
- ・運航情報を用いる方法

クラウド型航空機騒音データ分析システム Airise はインターネットを通じて利用できるクラウドサービスです。インターネットがあれば使用することができるため、運用面において、様々なメリットが得られます。



利用する場所や端末を問わない

インターネット接続環境さえあれば、事務所内に限らず、外出先でも利用することができます。在宅勤務中でも使用可能ですから、働き方改革や柔軟な働き方の推進にも貢献します。もちろん、Airise を利用するためにはライセンスが必要で、誰もが操作できるわけではありません。データを第三者に閲覧・改ざんされるというような事態は発生しません。

異動時の引継ぎが容易

航空機騒音監視業務の担当者様が異動となる場合でも、新任担当者様に引継ぎが必要になるのはライセンス情報のみです。専用端末が不要のシステムですから、新任担当者様は異動直後からすぐにご自身の PC で Airise を利用いただくことができます。

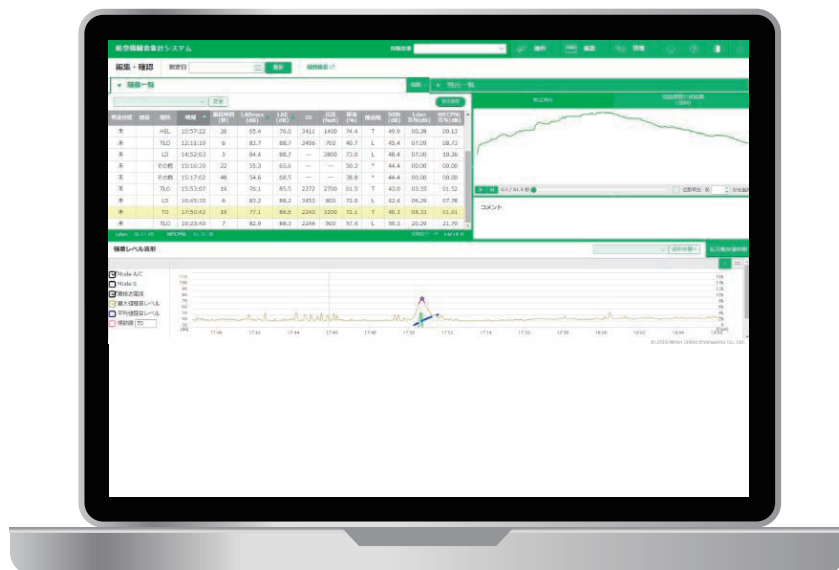
システム維持コストが小さい

従来の専用端末型のシステムと比べて、クラウド型システムは運用作業面と費用面の両面におけるシステム維持コストを小さくすることができます。その理由は、専用端末型システムで必要になる以下のコストが不要になるからです。

端末整備費用	専用端末型の場合、機器代その他、アプリケーションのインストール費用や端末の設置場所スペースが必要
端末保守費用	専用端末型の場合、年間保守契約を締結し、年に 1 回程度の定期点検と故障時の臨時点検が必要
端末更新費用	専用端末型の場合、機器の老朽化等により 5 年に 1 回程度の頻度で機器更新事業の起案と実行が必要

クラウド型航空機騒音データ分析システム Airise に搭載された多彩な機能

- 航空機騒音集計結果帳票がプリセットされ、Excel 形式でダウンロードできる帳票出力機能
- プリセットの帳票様式にとらわれることなく、任意の方法で集計した結果をダウンロードできる騒音検索機能
- 常時監視測定局の「今現在の騒音レベル」「直近で発生した航空機騒音」を確認できる、モニタリング機能
- 可搬型測定装置で測定したデータをシステムに投入するデータアップロード機能
- データ確定作業の省力化を実現する各機能
 - ・ 航空機騒音総合判定機能
 - ・ 航空機騒音確率値機能
 - ・ 寄与度分析機能



製造・販売：

HIBINO
hibino group

日本音響エンジニアリング株式会社

本社 〒130-0021 東京都墨田区緑 1-21-10 データサイエンス事業部
大阪営業所 〒591-8002 大阪府堺市北区北花田町 3-42-1
U R L <https://www.noe.co.jp/>

TEL. 03-3634-5309
TEL. 072-256-6811